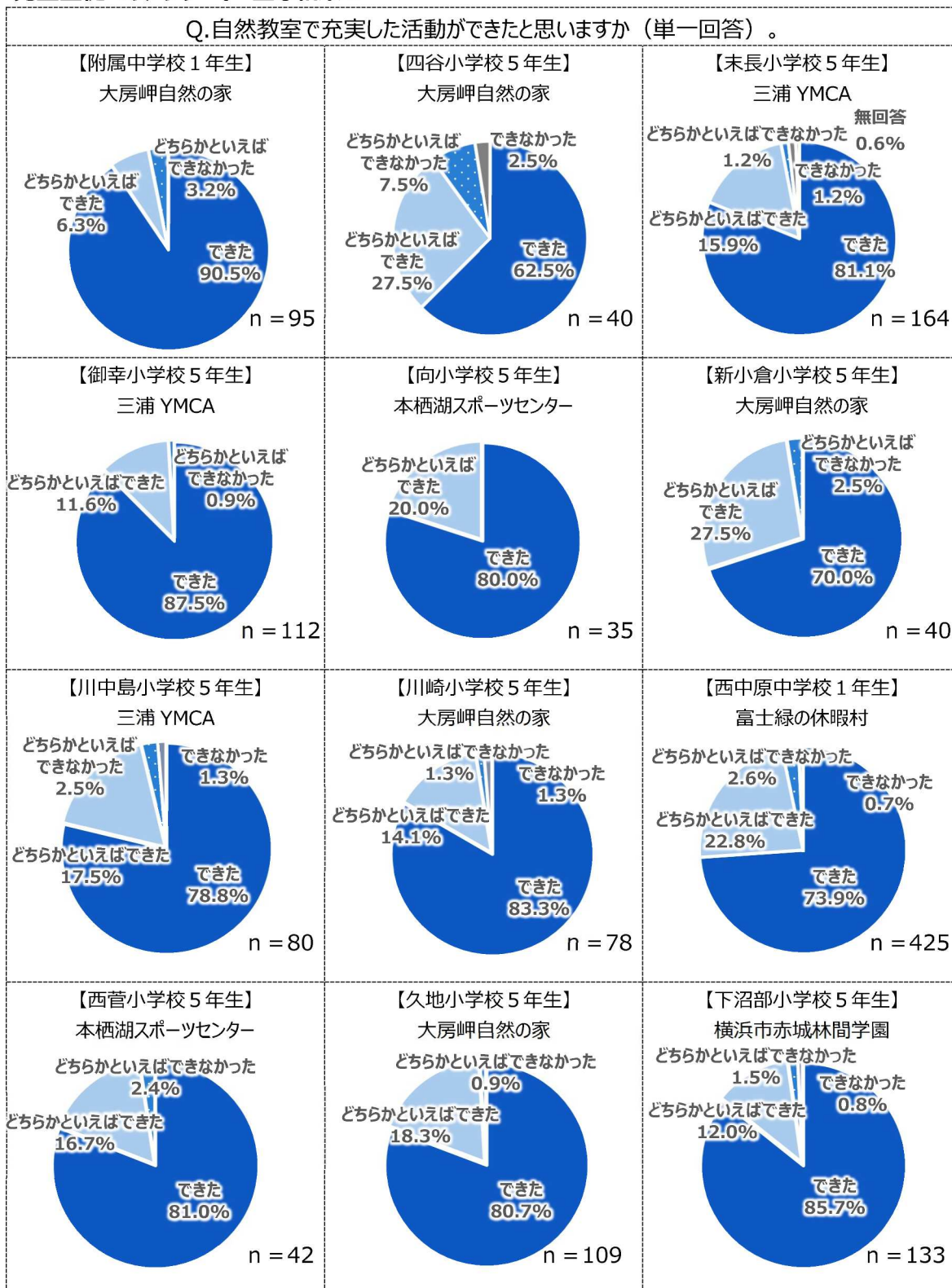
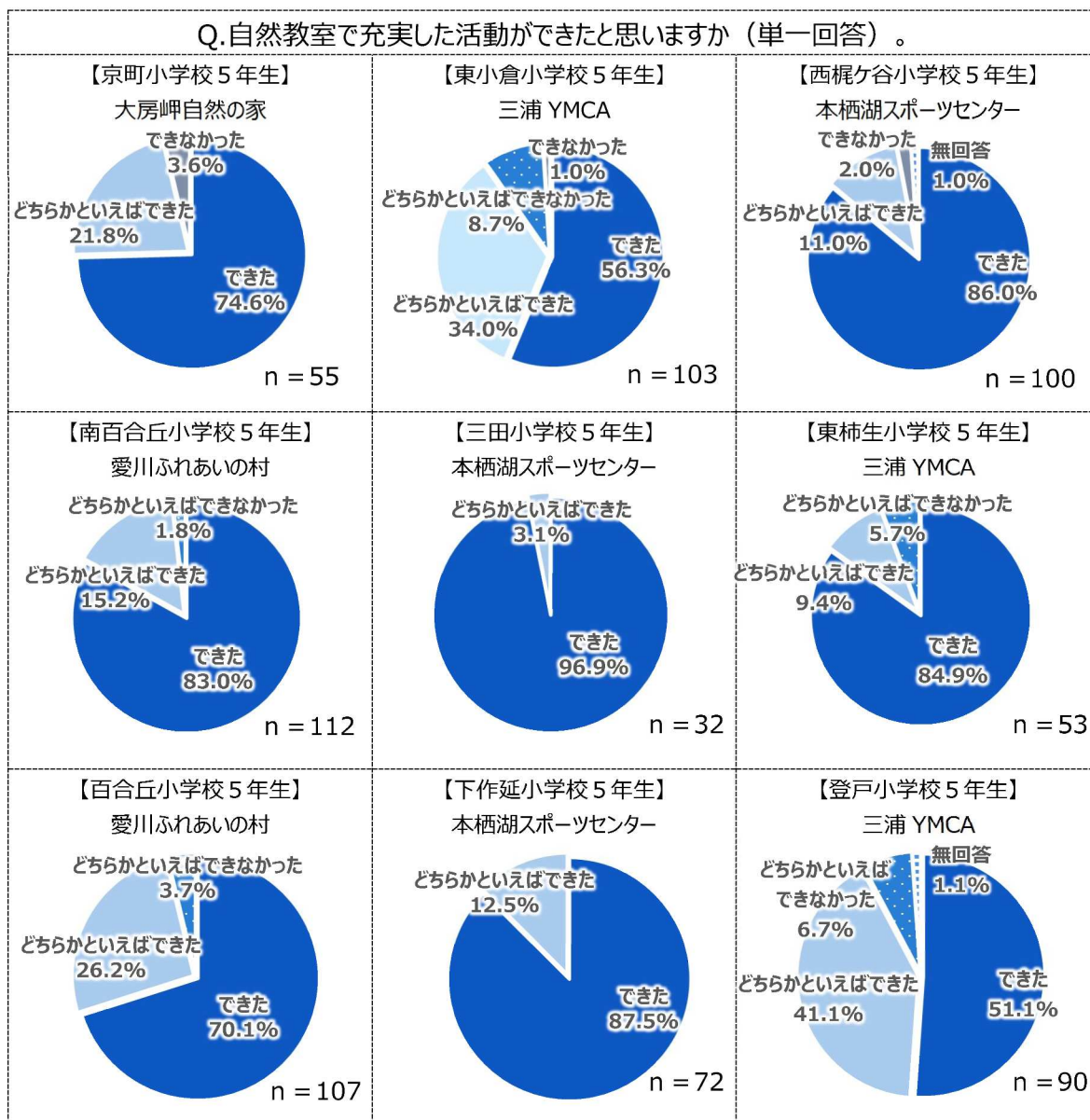


児童生徒へのアンケート 主な結果 1

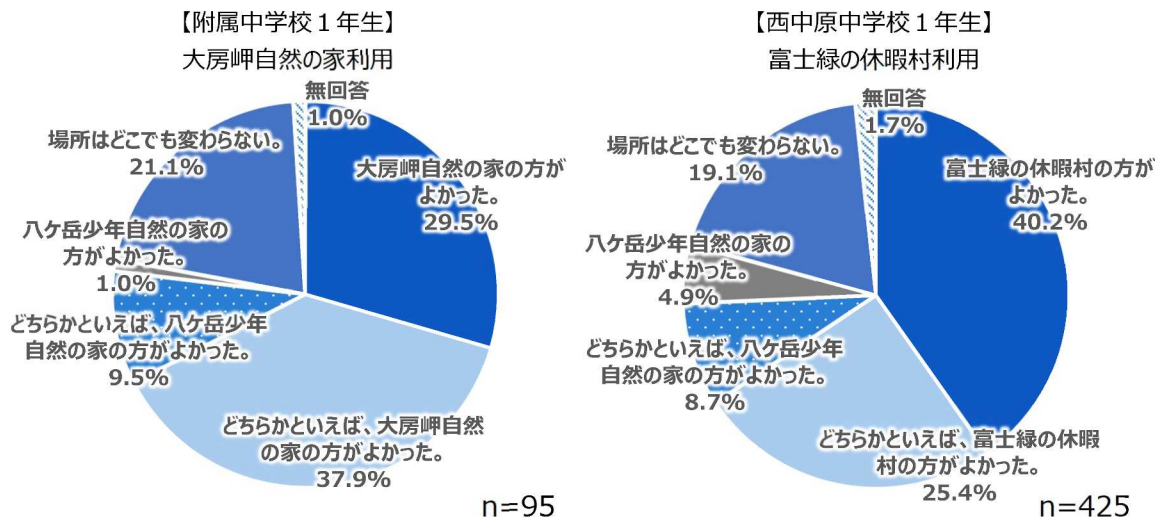




川崎高等学校附属中学校と西中原中学校の生徒は、小学校 5 年生のときに、八ヶ岳少年自然の家で自然教室を実施しているため、施設面でのアンケートを実施したところ、「今回行った施設のほうがよかった」又は「どちらかといえば、今回行った施設のほうがよかった」と回答した生徒の割合は、それぞれ約 66%となりました。また、場所はどこでも変わらないと回答する生徒もそれぞれ約 2 割程度おり、実施場所にこだわらない意見も見られました。

児童生徒へのアンケート 主な結果 2

Q. 5年生の時に行った八ヶ岳少年自然の家での自然教室と比べて、施設面等でどう思いましたか。
(単一回答)



上記の選択肢を選んだ理由

附属中学校 1年生

【大房岬自然の家がよいと回答した生徒】

- 森だけでなく海もあり、たくさんの体験をすることができたから。

【八ヶ岳少年自然の家がよいと回答した生徒】

- 大房は野外炊飯場に屋根が無く、虫や植物が食べるところや調理場にいたから。

【場所はどこでも変わらないと回答した生徒】

- 山と海とでどちらも良さがあ、そこでしかできない体験があるから。
- 場所よりも、誰とどんな活動をどんな気持ちで取り組んだかが大事だと思ったから。

西中原中学校 1年生

【富士緑の休暇村がよいと回答した生徒】

- 自然だけじゃなく、グラウンドとかみんなで楽しめるスペースがあって、とても便利だったから。
- 自然の家と比べて休暇村はとても広く、クラス活動が自由にできる施設だったから。

【八ヶ岳少年自然の家がよいと回答した生徒】

- 八ヶ岳は周りに何もなくて、自然を感じることができたが、休暇村は足りなかった。

場所はどこでも変わらないと回答した生徒】

- どちらの施設も私達を快く迎えてくれて、カレーづくりのときも、優しく丁寧に教えてくれたから。
- どちらもものすごく楽しく、思い出に残っている、楽しい宿泊学習だと思っているから。

(イ) 教員へのヒアリング

他施設で自然教室を実施した、小学校 19 校及び中学校 2 校（春季実施）の教員を対象に、ヒアリングシートによる聞き取りを実施しました。

他施設での実施を通して挙げた全体的な意見として、充実した活動、教育効果が高い体験活動プログラムを実施できたといった意見のほか、八ヶ岳少年自然の家での実施と比較して、移動時間が短いことによるメリットが挙げられました。また、教員の負担軽減策を図った結果、添乗員や看護師が配置されたことで、指導に専念できる体制が取れたといった意見が多く寄せられました（教員の負担軽減策についての効果検証の詳細については、48 頁参照）。

一方で、初めて利用する施設であったことから、八ヶ岳少年自然の家とは、環境や施設の細かいつくりのほか、実施可能な体験活動プログラム等も全て異なる中で、その施設の特性等に応じた工夫や対応が必要といった、今後の改善に関する意見が多く見られました。

他施設での実施を通して挙げた全体的な意見まとめ

【充実した活動、教育効果が高い体験活動プログラムの実施】

- 施設が変わっても、児童生徒は寝食を共にするはじめての集団行動の大変さや、集団行動をする上で大切なことは学べていると実感した。
- 野外炊飯、キャンプファイヤーなど、自然教室でしかできない非日常の野外体験活動を、これまでと変わらずに実施することができた。
- 野外活動については、山のプログラムだけでなく、場所によっては、ハイキングや磯遊び等、海のプログラムも選択できるようになった。

【移動時間が短いことによるメリット→ゆとりのある、充実したスケジュール】

- 学校からの移動時間が短くなったことで、行きや帰りに別の施設に寄ったり、更に体験活動が行えたりするなど、体験活動等に、より多くの時間を確保することができた。
- 移動時間の短縮は、バス酔いなど、児童生徒の不安解消につながるとともに、比較的ゆとりを持ったスケジュールを組むことで、児童生徒の体調管理の負担が減るなど、活動しやすかった。
- 児童生徒の体調不良時に、保護者にお迎えをお願いするケースが生じた場合、引取時間が短縮されるなど、迅速な対応ができた。

【添乗員や看護師の配置、最大 3 回の実地踏査など、指導に専念できる実施体制】

- 実地踏査において、旅行会社が間に入って各施設との事前調整を行ってもらえた。
- 体調不良者が出たときの事務手続や急な計画変更が起きた場合に、添乗員がいたことで、関係各所への連絡調整を担ってもらえるのはありがたかった。
- 添乗員からの情報提供により、行動の見通しや時間配分を確認しながらプログラムを進められたことはよかった。
- 1 校 1 名以上看護師が付くことで、発熱やプログラム中のけが等への丁寧な対応や、体調管理のために必要な注意喚起を行ってもらい、非常に安心感があった。
- 繰り返し下見に行ったので、負担は大きかったが、緻密な計画ができた。

【八ヶ岳少年自然の家とは異なる施設設備や利用方法】

- 宿泊棟のつくりやお風呂など、学校の人数規模に合った施設をあらかじめ選べたことで、実際に使ってみて、比較的使いやすかった。
- 初めて利用するため、動線のイメージが持てず不安な部分はあったが、ゆとりのあるスケジュールを組んだことで、都度、施設の職員や添乗員と相談、確認しながら取り組めた。
- 施設が貸切の場合、他団体に配慮する必要がなく、自由にプログラムを組めたところがよかった。

今後に向けた改善点など ※利用施設ごとの課題

【天候の影響を踏まえたプログラムづくり】

- 海のプログラムは雨だけでなく風の影響も大きく受けるため、晴れても変更が生じる可能性がある（三浦 YMCA、大房岬）。
- 雨天時の野外炊飯において、調理場に屋根がある場合でも、児童生徒数によっては、食事場所の備えが必要となる場合がある（三浦 YMCA、富士緑の休暇村）。
- グラウンドに屋根付きベンチはあるが、暑い時期に実施する場合、気候を考慮した活動計画を組む必要がある（富士緑の休暇村）。
- 10月だと海のプログラムも畑もちょうどできない時期であったため、できることが限られていた。（三浦 YMCA）

【施設ごとに食事や活動内容が異なること】

- 食事の提供量や内容が良い分、食事代も掛かる場合があるため、保護者への事前周知が必要（本栖湖、富士緑の休暇村）
- 海でのプログラムを実施する場合、マリンシューズなど、海用の準備が必要（三浦 YMCA、大房岬）。

【活動プログラムの更なる開拓】

- 今年度の活動内容（竜ヶ岳登山）は、児童には難易度が高く、時間がかかり、道中トイレもないため、より平易なプログラムの検討が必要（本栖湖）

【施設の立地や特性に応じた事前準備】

- 宿泊棟が離れている施設を利用する場合、棟間の荷物運搬が大変なので考慮が必要（三浦 YMCA）
- 市街地から離れた立地等の場合、緊急搬送用の車両の準備が必要（大房岬、本栖湖）
- 自然に触れる機会（ビーチコーミング等）は十分に取れたが、2日目もバスが活用できたら、もっと活動の幅が広がったと思う。（三浦 YMCA）

【施設内の生態への対応】

- ヒルやクマなどの発生状況から、自然に触れあう活動を入れ込むことが難しかった。（愛川、赤城林間学園）

イ 教員の負担軽減策に関する効果検証

教員の負担軽減に向けては、宿泊施設等との連絡調整や支払業務を担う添乗員の同行、看護師の全校派遣など、自然教室実施の際、教員が児童生徒の指導に専念できる体制や、旅行会社からのアドバイス、最大3回の実地踏査、各校の行程表や実施結果等を共有するGoogle クラウドの開設など、新たな行程表づくりをフォローする体制を整えました。

また、初めて利用する施設のため、様々な手続きの流れや周辺の医療機関等の情報が一目で分かるよう、「他施設説明書」を施設ごとに作成し、他施設実施校 35 校全校に直接出向いて説明するなどの対応も行いました。

これら教員の負担軽減策についても、他施設で自然教室を実施した、小学校 19 校及び中学校 2 校（春季実施）の教員を対象に、ヒアリングシートによる聞き取りを実施しました。

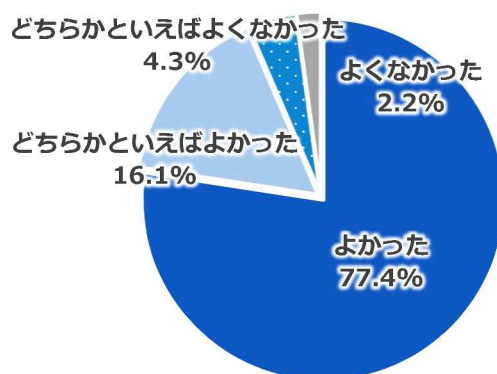
(ア) 添乗員の同行

自然教室実施時に同行する添乗員の業務内容は、宿泊施設や行き帰りに立ち寄る施設等との連絡調整や、児童生徒の体調不良時の教員補助や事務手続き、現地での支払いが発生した際の支払業務等になります。

ヒアリング結果からは、ほとんどの教員が、「よかった」又は「どちらかといえばよかった」と評価しており、当日の児童生徒指導や引率対応に関する負担軽減について、一定程度図られたと言えます。

教員へのヒアリング 負担軽減に関する主な意見 1

Q.当日は添乗員が同行しましたが、対応はどうでしたか。



n=93

上記の選択肢を選んだ理由

【よかった、どちらかといえばよかったと回答した教員】

- 計画した活動、学校側の要望等に対し、丁寧にバックアップしていただいた。
- 保護者対応、児童対応を教職員が行っている間に、施設の方とのやり取りや事務手続き等を行っていただき、本当に助かった。

【よくなかった、どちらかといえばよくなかったと回答した教員】

- 野外活動中の、飲料水ペットボトル配布において、ボトルが直射日光に晒されるグループが発生し、教員の方で臨機応変に対応したことがあった。
- はじめての自然教室ということもあるからか、事前に動いていただく場面が少なかったように思う。

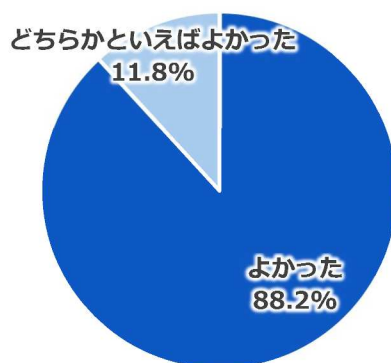
（イ）看護師の全校派遣

看護師については、八ヶ岳少年自然の家で実施する場合、小学校はセット（1セットおおむね2～3校）ごとに1名の派遣でしたが、他施設で実施する場合、各校が同日に複数の場所に行くことになるため、各校1名以上の看護師を派遣することとしました。また、八ヶ岳少年自然の家では、活動中、看護師は施設待機でしたが、他施設の場合、基本的には活動に同行することになります。

ヒアリング結果からは、全ての教員が、「よかった」又は「どちらかといえばよかった」と評価しており、体調不良や怪我の対応を看護師に任せられることができる分、本来行うべき児童の指導に専念できたといった意見や、野外活動時に、熱中症対策として飲料水摂取に関する注意喚起を行ってくれたことに対する感謝等もありました。

教員へのヒアリング 負担軽減に関する主な意見 2

Q.当日は看護師が同行しましたが、対応はどうでしたか。



n=93

上記の選択肢を選んだ理由

【よかった、どちらかといえばよかったと回答した教員】

- 体調不良や怪我の対応をお願いすることができ、その分、引率教員が児童の指導に当たることができて助かった。
- 登山中の負傷児童の対応や、体調不良者への飲料水の提供など、細かいところまで気を配ってくれ、とても助かった。
- 服薬のタイミングなども、各部屋を回って促していただいた。教員だけではそこまで細かな対応は当日のプログラムの中では難しかったと思うので、とてもありがたかった。

（ウ）旅行会社による事前調整

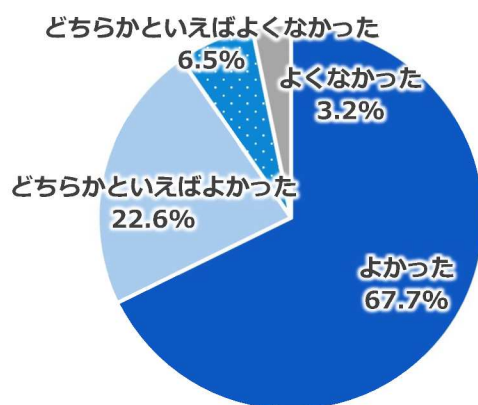
初めて利用する施設であることから、八ヶ岳少年自然の家の場合、各校1人1回のみの実地踏査を、他施設の場合は最大3回、各校人数制限なしで行えるようにするとともに、2泊3日の行程表作成の際、近隣のおすすめの施設や、作成した行程表が時間どおりに遂行可能かなど、旅行会社からのアドバイスを受けられるようにしました。

ヒアリング結果からは、ほとんどの教員が、「よかった」又は「どちらかといえばよかった」と評価しており、教員の行程表作成に係る負担や心配に関する負担軽減について、一定程度図られたと言えます。

一方で、実地踏査時に部屋のレイアウト等が確認できなかったといった、学校と旅行会社の間に認識のずれが生じている意見や、行程表作成時における旅行会社の役割がイメージできていない意見があったことから、令和8(2026)年度実施分からは、旅行会社が学校に直接出向き、業務内容や実地踏査に関する説明等を行うようにするなどの改善を図ることとしました。

教員へのヒアリング 負担軽減に関する主な意見3

Q.事前の実地踏査の調整について、対応はどうでしたか。



n=93

上記の選択肢を選んだ理由

【よかった、どちらかといえばよかったと回答した教員】

- 私たちがわからないことや、来年度に向けての行動の部分を見ていただき、助かった。
- かなり融通を効かせていただき、候補となる活動場所を見られた。

【よくなかった、どちらかといえばよくなかったと回答した教員】

- 最初に伝えられた日程が2週間ほど前になって変更になったり、いざ実地踏査に行ったものの、その日は利用者がいるため部屋が見られない、といったことがあったりしたため。
- 八ヶ岳での自然教室と同じように、実地踏査の日程を決めていただけるとありがたい。

(工) その他、様々な教員の負担軽減策

各校の行程表や実施結果、今後に向けた改善点等を情報共有できるよう、Google クラウドを開設し、随時、教員が管理する端末から確認できるようにしました。

また、施設ごとに提出書類や手続きの流れが異なることから、施設ごとに、事前及び当日の手続きの流れや緊急時の対応や周辺の医療機関等の情報、旅行会社等の連絡先を1枚にまとめた「他施設説明書」を作成し、他施設実施校35校全校に直接出向いて説明しました。

令和8(2026)年度他施設実施校一覧

	施設名	学校名
小学校 52校	神奈川県立愛川ふれあいの村	田島小、有馬小、稲田小、菅小、金程小、 百合丘小●、南百合丘小●
	三浦 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ	宮前小、南河原小、御幸小●、戸手小、 東小倉小●、小倉小、玉川小、梶ヶ谷小、 西有馬小、登戸小●、千代ヶ丘小、東柿生小●
	南房総市大房岬自然の家	四谷小●、東門前小、渡田小、浅田小、 川崎小●、京町小●、西御幸小、新小倉小●、 久地小●、生田小
	千葉県立君津亀山青少年自然の家	大師小、南加瀬小、夢見ヶ崎小、下平間小、 大戸小
	本栖湖スポーツセンター	向小●、古市場小、下作延小●、 西梶ヶ谷小●、西菅小●、三田小●
	富士緑の休暇村	川中島小■、子母口小、末長小■、久本小、 向丘小、稗原小、土橋小
	横浜市少年自然の家 赤城林間学園	下沼部小●、新城小、南生田小
	国立赤城青少年交流の家	高津小、片平小
中学校 41校	湯沢東映ホテル	大師中●、渡田中 ※新幹線利用
	国立高遠青少年交流の家	田島中、御幸中、玉川中
	八子ヶ峰ホテル	塚越中、南加瀬中、中原中■、宮内中、橋中、 高津中、西高津中●、有馬中●、稲田中●、 南生田中●、白鳥中
	亀屋ホテル	南大師中、京町中、桜本中、臨港中、 南河原中●、井田中、平中●、向丘中、 南菅中●、長沢中、柿生中
	富士緑の休暇村	西中原中(春実施)●、宮崎中●、宮前平中● 菅生中●、金程中●、麻生中
	車山ハイランドホテル	生田中
	池の平ホテル	菅中
	白樺高原ホテル	富士見中、東高津中、西生田中
	ホテルサンバード	平間中、今井中●
南房総市大房岬自然の家	附属中(春実施) ●	

※●令和7(2025)年度他施設で実施、■令和7(2025)年度別の他施設で実施

（３）民間活用による持続可能な実施手法の検討

持続可能な実施手法の確立に向け、令和 7 (2025)年度は、中間報告に基づき、令和 8 (2026)年度実施分の事前準備に関する業務のうち、宿泊施設の予約や行程表の作成等について、民間事業者のノウハウを活用したアウトソーシングによる手法を検証することとしました。

ア、この検討の結果、3 年間で全校他施設での自然教室の実施は可能と判断しました。

持続可能な実施スケジュール

R7	R8	R9	R10
R7当日対応			全校他施設実施
R8事前準備	R8当日対応	段階的に移行	
R9希望調査	R9事前準備	R9当日対応	
	R9バス手配	R10事前準備	R10当日対応
	R10希望調査	R10バス手配	R11事前準備
		R11希望調査	R11バス手配
小学校19校 中学校16校	小学校52校 中学校41校		

ア バスの予約に関する検討

昨年度に続き、この間、旅行会社等の民間事業者と意見交換を重ねてきました。令和 6 (2024)年度ほどではないものの、バス運転手が不足している状況は改善しておらず、今後も早期のバス確保の必要があることから、債務負担を設定し、前年度のなるべく早い時期からバスの入札手続きが行えるようにしました。また、施設ごとに予約可能な時期が異なることから、これまでの一括発注ではなく、施設の予約が完了した学校分から、順次バスの手配を行うこととしました（八ヶ岳少年自然の家実施分を除き、5 回に分けて実施）。

その結果、令和 8 (2026)年度実施分について、小学校 52 校分は、全てのバス手配について完了又は手続き中であり、中学校 41 校分については、令和 7 (2025)年 11 月現在、バスの入札手続中となっています。

イ 宿泊施設の予約に関する検討

令和 7 (2025)年度の他施設実施校の施設予約について、35 校全ての予約を教育委員会事務局で行いましたが、今後、全て直営で実施するには相当の時間と労力を要することから、中間報告では、令和 8 (2026)年度実施分については、他施設を希望する学校と施設のマッチング業務等も含めて委託業務とすることとしていました。しかしながら、複数の民間事業者との意見交換から、民間施設の予約は旅行会社のノウハウを駆使して可能であるものの、公共施設の場合、予約方法が抽選であったり、旅行会社が間に入ることが難しかったりするなど、施設確保の確約が難しいことが判明しました。

他施設希望先としては、公共施設も一定数あることから、令和 8 (2026)年度実施分については、前年度と同様に、教育委員会事務局から全校に対し希望調査を実施し、各校の希望と宿泊先とのマッチングを直営で実施することとしました。結果として、令和 7 (2025)年度に他施設で実施している学校分については、大きな日程変更（秋から春への変更など）や実施施設の変更がない限り、抽選予約の施設以外は、すでに枠を確保できている状態であるため、新たに他施設での実施を希望する学校を中心に、日程調整等を行うこととなりました。

現在、3 年間を目途とした全校実施が可能かの検討を行っていますが、移行期は八ヶ岳少年自然の家での実施も含め、一定程度の時間と労力が必要であるものの、移行が完了する令和 10(2028)年度以降は、これまでの日程調整等と、ほぼ労力等に差はないと想定しています。

また、安定的かつ確実な全校実施に向けては、利用施設の拡充が効果的であることから（51 頁参照）、民間事業者と、利用施設の拡充に向けたコンサルティングや情報提供業務の委託なども検討しましたが、現状においても、旅行会社や観光協会、他自治体の観光担当等から、様々な施設情報が寄せられるなど、情報収集体制が整いつつあるため、コストをかけなくても、都度、利用施設を拡充していくことは可能であると判断しました。

（４）３つの検討案 コスト比較

持続可能な自然教室の実施に向けては、コスト面からの検討は不可欠です。中間報告において、「現地での再編整備」、「富士見町内での移転整備」、「他施設の活用」について、全市立小中学校の自然教室をそれぞれの手法で実施した場合のコスト比較を行いました。令和 7（2025）年 9 月に国から公示された貸切バスの運賃・料金⁴や、令和 8（2026）年度実施分の各校の他施設予約状況や施設使用料のほか、物価上昇率など、各案の最新の状況を加味した上で、再度積算し、改めて比較検討しました。

「現地での再編整備」及び「富士見町内での移転整備」については、自然教室運営費のほかに、市で施設を保有することになるため、指定管理料、施設整備費、施設修繕料が必要となります。また、「富士見町内での移転整備」については、土地取得経費等が別途必要となります。両案ともに、必要な施設整備費及び施設修繕料について、施設を 60 年使用すると想定して 1 年当たりのコストを算出しました。

一方で、「他施設の活用」については、現在の自然教室における保護者負担に関する考え方⁵に基づき、食事代や体験活動等に関する費用を保護者負担、それ以外の経費（バス等の移動費及び宿泊料）を公費負担として積算した場合、自然教室運営費は他の 2 案に比べて増加するものの、指定管理料や施設整備費、施設修繕料は不要となります。

令和 6（2024）年度積算時においても、公費負担額としては、「他施設の活用」が最も効率的な状況でしたが、最新の状況を加味した結果、さらにその差は広がることとなりました。

差が広がった要因としては、中間報告時点では、公費負担としている宿泊料等について、比較的高い宿泊料等の施設で積算していましたが、令和 8（2026）年度の他施設実施校の状況から、公共施設を希望する学校が当初の想定より多かったため、実態に合わせて積算し直した結果、「他施設の活用」における自然教室運営費のコストが下がったこと、また、施設整備にかかる物価上昇率が上がったことに因るものと捉えています。

保護者負担については、現状、小学校及び春季実施の中学校の負担額（食事代、保険代のみ。体験活動費⁶等は別途必要）は約 4,000 円、冬季実施の中学校の負担額（食事代及びスキーレンタル代等。その他の体験活動費は別途必要）は約 22,000 円ですが、「他施設の活用」の場合、小学校及び春季実施の中学校の負担額は約 4,100～8,300 円程度、冬季実施の中学校は約 24,000～33,000 円程度となっています。

⁴ 国土交通省が定める貸切バスの公示運賃で、下限額を運輸局ごとに示したもの。令和 7（2025）年 9 月 26 日公示。公示運賃の見直しは令和 5（2023）10 月以来

⁵ 本市の教育活動においては、人件費や施設整備費、学習指導のために要する経費を公費負担する一方で、学習教材や校外施設学習の食費、遠足、修学旅行費等の直接的利益が児童生徒に還元される費用については、保護者負担としている。

⁶ 実施内容によって異なるため省略。なお、八ヶ岳少年自然の家での実施においても 3,800 円程度の差が生じている。

3つの検討案 コスト比較 ※中間報告時点

検討案	年間総コスト ①+②	自然教室運営費 (年間)	指定管理料 (年間)	年間ランニングコスト①	市で保有した場合のコスト		
					施設整備費 A ※R6.10月時点	施設修繕料 B (60年分)	年間コスト② (A+B)/60
現地での再編整備	約 7.7 億円	約 3.5 億円	約 2.6 億円	約 6.1 億円	約 72 億円	約 22 億円	約 1.6 億円
富士見町内での移転整備 (候補地3)	約 7.6 億円 +a	約 3.5 億円	約 2.6 億円	約 6.1 億円	約 68 億円 +土地取得費等	約 22 億円	約 1.5 億円 +a
他施設の活用	約 6.8 億円	約 6.8 億円	—	約 6.8 億円	—		

3つの検討案 コスト比較 ※最新の状況を加味して再積算

検討案	年間総コスト ①+②	自然教室運営費 (年間)	指定管理料 (年間)	年間ランニングコスト①	市で保有した場合のコスト		
					施設整備費 A ※R7.4月時点	施設修繕料 B (60年分)	年間コスト② (A+B)/60
現地での再編整備	約 8.4 億円	約 3.8 億円	約 2.9 億円	約 6.7 億円	約 77 億円	約 23 億円	約 1.7 億円
富士見町内での移転整備 (候補地3)	約 8.3 億円 +a	約 3.8 億円	約 2.9 億円	約 6.7 億円	約 73 億円 +土地取得費等	約 23 億円	約 1.6 億円 +a
他施設の活用	約 6.7 億円	約 6.7 億円	—	約 6.7 億円	—		

自然教室運営費内訳 コスト比較

中間報告時点

(単位 千円)

最新の状況を加味して再積算

(単位 千円)

項目	他施設	八ヶ岳	項目	他施設	八ヶ岳
バス代、新幹線代	265,576	270,840	バス代、新幹線代	↗291,123	↗296,666
教員引率費用	26,264	6,789	教員引率費用	22,154	7,309
看護師派遣費用	19,849	11,385	看護師派遣費用	20,940	11,577
指導補助員費用	31,575	23,016	指導補助員費用	↗40,245	↗31,196
添乗員派遣費用	24,000	0	添乗員派遣費用	26,400	0
児童生徒宿泊料等	214,991	0	児童生徒宿泊料等	↘158,117	0
保険料	1,173	1,173	保険料	1,266	1,266
事務手数料	33,952	0	事務手数料	38,684	0
その他	1,254	0	その他	↗8,227	294
特別支援学校自然教室費用 (横浜あゆみ荘)	3,516	3,516	特別支援学校自然教室費用 (横浜あゆみ荘)	3,600	3,600
消費税	57,676	28,626	消費税	57,724	31,124
合計	679,824	345,345	合計	668,480	383,033

+指定管理料 265,270

+指定管理料 292,726

自然教室保護者負担額及び公費負担額（令和7（2025）年度利用施設）

小学校及び中学校（春季）

施設名	児童数	保護者負担額	公費負担額		
		1人あたり	1人あたり	内訳	
		食事代 (朝・昼・夜各2回) 保険代 ※1	宿泊代+移動代目安	宿泊代 (2泊3日素泊まり分、 寝具代等含む)	移動代(往復)目安 ※2
川崎市八ヶ岳少年自然の家	10,078人	4,038円	- (指定管理料で負担) ※R7指定管理料(見込) 264,113千円		約7,921円
愛川ふれあいの村	264人	4,398円	14,009円	1,300円	約12,709円
三浦YMCA	737人	6,108円	18,884円	6,660円	約12,224円
大房岬自然の家	507人	5,218円	21,172円	3,600円	約17,572円
本栖湖スポーツセンター	345人	6,098円	27,362円	7,640円	約19,722円
横浜市赤城林間学園	143人	4,138円	18,304円	1,800円	約16,504円
富士緑の休暇村	451人	8,378円	22,090円	10,580円	約11,510円

中学校（冬季）

施設名	児童数	保護者負担額	公費負担額		
		1人あたり	1人あたり	内訳	
		食事代 (朝・昼・夜各2回) 保険代 活動費(スキー代)	宿泊代+移動代目安	宿泊代 (2泊3日素泊まり分、 寝具代等含む)	移動代(往復)目安 ※1
川崎市八ヶ岳少年自然の家	6,280人	22,278円	- (指定管理料で負担) ※R7指定管理料(見込) 264,113千円		約9,297円
湯沢東映ホテル	188人	30,338円	29,196円	12,100円	約17,096円
八子ヶ峰ホテル	1,051人	26,948円	22,344円	11,990円	約10,354円
亀屋ホテル	300人	26,068円	29,184円	14,300円	約14,884円
富士緑の休暇村	1,241人	33,378円	20,752円	10,580円	約10,172円
ホテルサンバード	117人	24,293円	24,262円	12,100円	約12,162円